

～レースレポート TOYOTA GAZOO Racing Rally Challenge～

2026 年 第 6 戦 恐竜 勝山



■ 大会概要

日程: 2026/7/11(土)～7/12(日)

場所: 福井県勝山市

総走行距離: 47.97km SS 区間 7.44km

■ スペシャルステージ設定

SS1: 1.61km SS 順位 11 位

SS2: 1.61km SS 順位 12 位

SS3: 0.50km SS 順位 6 位

SS4: 1.61km SS 順位 15 位

SS5: 1.61km SS 順位 14 位

SS6: 0.50km SS 順位 9 位

■ リザルト CH-2: YARIS/Vitz ガソリン車(MXPA10/NCP131/NCP91) 11 位/19 台

8	153	仲田 武司	片山 夏希	ヤリス	MXPA10	Netz富山Racingヤリス	1:51.0
9	142	高須 敏男	鈴木 規靖	ヤリス	MXPA10	金星工業たのしんじゃうヤリス	1:52.6
10	145	鈴木 聖崇	菊地 佳代子	ヴィッツ	NCP91	しょこなき宇宙少年CAFFヴィッツ	1:49.9
11	146	加藤 光空	杉浦 真吾	ヴィッツ	NCP131	GLW Racing 1st Vitz	1:53.8
12	151	鈴木 啓介	加藤 昭文	ヤリス	MXPA10	Career Racing YARIS	1:56.4

ダイジェスト

7/11～7/12 に福井県で開催された TOYOTA GAZOO Racing Rally Challenge 第 6 戦 恐竜 勝山に GLW Racing Team が参戦。

今シーズンは新入社員の加藤光空をドライバーに据え、コ・ドライバーの杉浦真吾がサポートする体制で挑み、本戦がシーズン 3 戦目だ。



前回のリタイアを乗り越えて自信を覗かせる加藤・杉浦両選手

恐竜の聖地として世界中にその名を轟かせる勝山市は、既に 10 年前からラリーチャレンジを開催しており、新たな観光資源づくりにも積極的な魅力の溢れる自治体だ。町全体が恐竜とコラボしており、競技区間だけでなくリエゾン区間やラリーツーリズムも含めて週末全体を楽しみたいラウンドだ。

前回はドライブシャフトの故障によりリタイアを余儀なくされた加藤・杉浦ペアだが、この 2 週間で車両も万全な状態にメンテナンスされ、本戦ではジャンプアップを狙いたい。梅雨明け前の 7 月上旬とは思えない猛暑日となり、競技者とサービスメンバーの体調管理も重要なタスクとなりそうだ。

前日のレッキでは、ストレートスピードが予想以上に乗りそうだということや、コーナリングスピードが勝敗を分けることを確認した。また本戦は競技区間がどれも短く、距離の違いも大きくないため、全区間で緊迫した、そしてコンマ 1 秒を争う戦いになりそうだ。



初夏の猛暑に項垂れる GLW サービスメンバー

最初の SS1 は上り坂が多い区間。ヤリスの上に出るのは至難の業ではあるが、加藤選手の得意なタイプのコーナリングが多い区間だ。思い切った突っ込みを意識し、結果はクラス内 11 位。過去最高の順位を叩き出した。

続く SS2 は上り坂かつ 100m 超のロングストレートが複数存在する。ヤリスにエンジン性能で劣る分、失点の少ない走りで差を開けられないことに注力した。コーナーで無理に突っ込まず、早めのブレーキと早めの立ち上がりを意識。12 位だった。前 SS より 1 つ順位を落としたものの、上々の立ち上がりと言える。

前半ラストの SS3 はジムカーナコース。加藤選手はジムカーナの経験はないものの、前日に昨年のパークキング大野秀昭選手から指導を受けた。また加藤選手持ち前の記憶力も活かし、なんとクラス内 6 位を記録。

苦手としてきたパーク内にて最高記録を出せたことは今後への期待が膨らむ内容であった。



パークで疾走する加藤・杉浦ペア

午後の競技では、午前中の流れをそのままに Vitz 内 1 位を狙いたいところ。最初の SS4 はスタートこそ失敗したものの、順調な走り出しを見せる。ところが途中でコドラの杉浦とのコミュニケーションミス。いくつかのコーナーの進入速度を上げることができず、痛恨の午前+0.6 秒。ほとんどのライバル達が午前から 3~5 秒上げているところ、痛いミスによりクラス内 15 位。大きなビハインドを抱えてたまま次に期待を残す。

続く SS5 ではスタートはまずまずながら、途中のダート道でシフトミスなど、細かなエラーを複数冒してしまった。結果午前+3.3 秒のクラス内 14 位となった。

悪い雰囲気の中気持ちを切り替えて臨んだ最後の SS6。ここでも加藤選手の技を出し切り、クラス内 9 位でフィニッシュ。最後の追い上げが功を奏し、全体では 11 位をなんとかキープして大会を終えた。

午後にタイムを上げられない昨年からの GLW Racing Team の悪しき伝統を引き継いでしまっている感が否めない結果ではあるが、全体を通せば大幅に順位を上げることに成功した。

本戦は準備から段取り良く進められたことや二人の信頼関係が上がってきたことがジャンプアップに繋がったが、午後の巻き返しなど課題も数々見つかり、学び多き週末となった。

技能の面でも気持ちの面でも、次戦に向けて良い準備を進めていきたい。

次戦はサマーブレイクを挟んで 8/23 の安芸高田に参戦予定だ。



SS4 前半で軽快な走りを見せる Vitz

【ドライバーコメント】

加藤光空選手： 今回の勝山戦では、苦手とするジムカーナコースや初挑戦のダートなど難しいレースになると考えていました。事前に大野さんの助言を受けてライン取りを工夫することで良い走りをすることができました。目標であった 1 桁順位までは届きませんでした。次戦ではライバル達に負けないような走りができるように頑張ります。

【コ・ドライバーコメント】

杉浦真吾選手： 前半の走りには大きな手応えを感じました。実際にある程度の結果もついてきたので、この調子を続けたいところでした。午後は私に起因するコミュニケーションミスも原因で順位を下げることになってしまいました。ドライバーの加藤選手との息も少しずつ合ってきたようには感じていますが、良い調子を午後までキープできるように引っ張っていきたいです。週末を通して段取り良く進めることができ、二人で話し合いの時間を長く持てたのは今後に向けての好材料でした。次戦はダート比率が上がり厳しい戦いになると思いますが、また一つ一つ経験値を上げていけるように頑張ります。

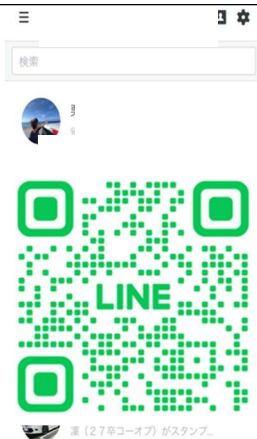


競技前の打ち合わせの時間で詳細を詰める加藤・杉浦両選手

各種 SNS やっています！

公式 LINE

候補者との主要連絡手段



YouTube

日本語 8 割・英語 1 割・ベトナム語 1 割



X

主にレースについて発信



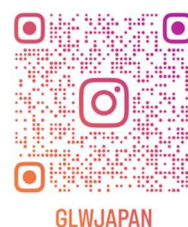
Linkedin

海外向け情報発信・採用



Instagram

リール投稿してます！



GLW について

GLW は、モビリティ業界において専門技術サービスを提供するビジネスソリューション企業です。

社員一人ひとりの持つ技術力を武器に、受託開発や技術コンサルティング、エンジニア派遣サービスを展開しています。創業 5 年目の若い会社ですが、社員数は既に 130 人を超えており、日本中の自動車メーカーおよびサプライヤーの設計開発業務を支えています。

社員構成上の特徴は、外国籍社員の割合が 7 割以上である点です。豊かなダイバーシティと技術力の掛け算で、日本のモビリティ業界を変革に導きます。

GLW Racing Team は社員チームに拘り、モータースポーツと設計の良いフィードバックループを生み出し、もっと良いクルマづくりに貢献します。今シーズンは GR86/BRZ Cup、TOYOTA GAZOO Racing Rally Challenge に参戦します。

<メディアからのお問合せ先>

株式会社 GLW 人材開発室 室長 杉浦 真吾

TEL: 045-900-8393 E-mail: newg-recruit@glw.co.jp

